

博物館だより

No.56

平成22年12月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

歴史たんけん 作文コンクール 入賞者決定!

博物館友の会とみやこ町教育委員会が共催で実施した「夏休み歴史たんけん作文コンクール」の入賞者が決定しました。今回で15回目となるこの作文コンクールには130点の作品が寄せられました。どの作文もよく書けていましたが、その中でも特に優れた5点が今回入賞者として選ばれました。各賞の受賞者は次のとおりです。

◎最優秀賞(1名)

今川小学校6年 湖平 元彌
「天下人をむかえた馬ヶ岳城」

◎優秀賞(4名)

★豊津小学校6年 鹿嶋 瑠里
「戦争」

★仲津小学校6年 白土 華乃子
「兵隊さん」

★南古宮小学校6年 藤寄菜都美
「歴史がつまった上毛町」

★黒田小学校5年 古門 まなみ
「上田の歴史」

※優秀賞の配列は氏名の五十音順



入賞おめでとう

歴史を学ぼう!文化にふれよう! 歴史講座受講生募集!

博物館では「歴史講座」の受講生を募集しています。

歴史講座には「漢詩文講座」「古典かな講座」「古文書講座」「金曜古文書講座」「みやこ学講座」の各コースがあります。年度途中からの受講開始も大歓迎!受講希望の方はお気軽に博物館(TEL33-4666)までお問い合わせください。

なお、各コースともに、1回につき資料代200円が必要です。

講座内容紹介

【漢詩文講座】

●講師 宮原加代子 先生

●内容 昭和の元号を創案した吉田増蔵(号は学軒)はふるさと出身の漢学者です。彼の詩の鑑賞を通して、新たな学軒像を発見してゆきます。漢詩の基礎も学習しますので初心者も歓迎です。

●実施日 毎月第1土曜日
午前9時30分

【古典かな講座】

●講師 宮原加代子 先生

●内容 奈良時代に筑紫を中心に活躍した万葉歌人の歌を手習いしつつ鑑賞します。初心者大歓迎!用紙と鉛筆あるいは筆、ペンを(用意下さい)。

●実施日 毎月第3土曜日
午前9時30分

【古文書講座】

●講師 当館学芸員 川本英紀

●内容 江戸時代の人が「くずし字」で書いた手紙や日記などを解読します。特にみやこ町に関係する古文書を歴史的な背景について解説を交えながら読み進めます。

●実施日 毎月第2土曜日
午前10時00分

【金曜古文書講座】

●講師 当館学芸員 川本英紀

●内容 博物館に収蔵される古文書をテキストとして、江戸時代後期以降の豊前地域をめぐる行政・生活・文化に関わる様々な情報を読み解きます。

●実施日 毎月第4金曜日
午前10時00分

【みやこ学講座】

●講師 当館学芸員 木村達美

●内容 郷土の歴史について、講義や現地見学、体験学習などを行います。

●実施日 毎月第4土曜日
原則、午前10時00分

《古文書解読コーナー》

① 水陸

② 〈ヒント〉水面と陸地が接する所

③ 舟

④ 〈ヒント〉〇〇もめ

⑤ 楽

⑥ 〈ヒント〉楽器、音曲。〇〇入り

⑦ 心くばり

⑧ 〈ヒント〉ひととおりを通す

⑨ 舞

⑩ 景

⑪ 水

(反対向きに見てください)

舞 ⑥
水 ⑪
景 ⑩
水 ⑪
舞 ⑥

みやこの歴史発見伝 44

英彦山秋峰道・蔵持山大廻道

ひこさんあきのみねみち くらもちさん おおめぐりみち
—みやこの山中に残る二つの「祈り(修行)の山道」—

「行楽の山」は「修行の山」

秋の行楽シーズン、澄んだ青空

の下で登山や紅葉を楽しみに町内外で登山を楽しんだ方も多し、ことと思えますが、殊みやこ町の山々については、その山中や峰の尾根道等が古くからの「歴史の道」、特に「山伏」とよばれる山岳修行者達が利用した「祈り(修行)の山道」だったことをご存じでしょうか？

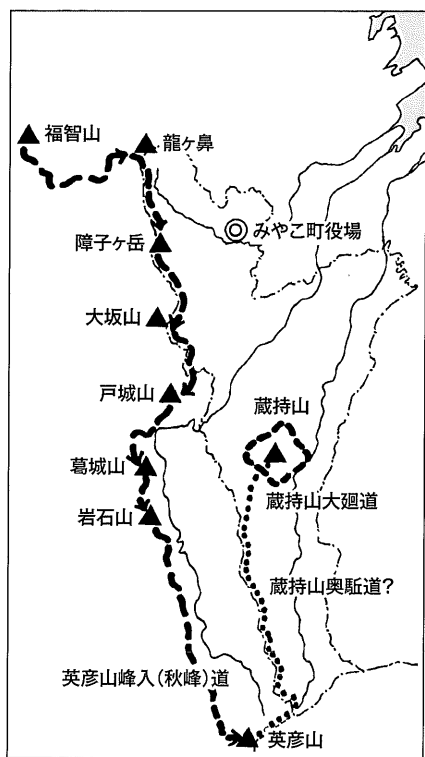
的なものの二部をご紹介してみましよう。

英彦山秋峰道(大坂山周辺)

テレビ塔や無線塔が立ち並び、お天気山として知られる大坂山は、かつて英彦山(添田町)の山伏たちが「峰入り」とよばれる修行のコースとして利用した「祈りの山道」の一部でした。

平安時代以来つづいた英彦山の山伏たちの周辺の山々での修行は、室町期に定形コースが確定して以降「秋峰」の道として整備されました。

秋峰は福智山(直方市)〜英彦山間(往復約130キロ)の峰々を35日間で踏破・山籠りするも「祈りの山道」についてその代表



▲町内の「祈りの山道」ルート位置図



▲大坂山から見る秋峰道ルート(左奥ピークが「龍ヶ鼻」)

ので、春峰(英彦山)〜宝満山(太宰府市)間往復約140キロ)とともに過酷な行として知られ、途中命を落とす山伏もいたと記録されています。

大坂山周辺のルートは福智山から尾根筋を南東下し、そのままみやこ町内に至つて龍ヶ鼻味見峠・障子ヶ岳・石鍋越をへて大坂山山頂へ至るもので、今では二部が絶好のハイキングコースとなつてはいるものの、険しい尾根や岩場も多く、やはり修行の道の佇まいが窺えます。

特に大坂山山頂の飯嶽権現の祠や「石置権現」とよばれる天然の石畳状の岩場は、この山と周辺が修行と祈りの場であったことを物語っています。

厳しい道中を過ごした山伏達も、大坂山山頂での素晴らしい眺望にしばし辛さを忘れ、このあ

とに歩みを進める戸城山や葛城山(赤村)・岩石山(添田町)を越えての英彦山への帰路に思いをはせたことでしょうか。

蔵持山大廻道(蔵持山中)

犀川地区の遠足山としておなじみの蔵持山は、たおやかな富士山型の山容が印象的な「里山の霊山」ですが、この山にも「祈りの山道」が遺されています。

その道は「大廻道」と呼ばれ、山中にある数多くの礼拝対象を「廻る行(大廻行と呼ぶ)のためのもので、旧講堂(現祝詞殿)を起点に山の7合目付近をぐる



▲大廻道の一部となる蔵持山中の行場・針の耳

ある蔵持山にも、室町期あたりに英彦山経由で導入されて独自の発展整備をとげたものと思われまます。

なお、大廻道は内廻(小)・外廻(大)の大小2ルートがあつて、内廻は山中の堂社や窟・霊木等を廻つて山中全ての神仏諸精霊に祈りを捧げる巡回路であるのに対し、外廻は「四至」とよばれる山の四方に設けた境界標を巡る一種の巡検路となるのが特徴とされています。蔵持山の場合、内廻は概ね判明し、外廻についても四至は判明するものの、それを廻るルートや英彦山への奥駈道(蔵持山〜英彦山)等未解明の部分も多く今後の研究課題となっております。

みやこの山中に残るこの二つの「祈りの山道」は、古人達の求道の姿を知る格好の文化遺産といえそうです。(木村達美)



▲大廻行をほうふつとさせる求菩提山の千日行